

令和元年度第1回 熊本市地域包括支援センター運営協議会会議要旨

- 1 日時 令和元年8月26日(月) 18時から
- 2 場所 本庁舎11階会議室
- 3 出席委員 秋野逸郎、東和子、石橋敏郎、川上賢蔵、空閑節子、小山登代子、坂本昌明、田中弥興、出口博明、柳楽雅子、本庄弘次、本尚美(敬称略)
- 4 報告 (1) 「チャレンジ! ささえりあ2018」(平成30年12月18日) 事例発表
ささえりあ清水・高平(北3)
『清水・高平台校区の通いの場「かたんなっせ」
～作って 育てて 見守って～』
- 5 議題 (1) 地域包括支援センターの運営状況及び評価について
(2) 令和元年度地域包括支援センターの重点的取組(報告)
- 6 議事録等(要旨)

事例発表

<清水・高平台校区の通いの場の事例についてささえりあ清水・高平(北3)より発表>

○副会長

(清水・高平台校区の通いの場「かたんなっせ」の)リーダーはどのように選任されているのか。

○ささえりあ清水・高平(北3)

民生委員が主だが、誰でも担えるようになるため、参加者でリーダーを回して役割分担をされている。

○委員

(清水・高平台校区の通いの場「かたんなっせ」を)立ち上げることができた要因は何か?

○ささえりあ清水・高平(北3)

生活支援コーディネーターに着任した際、各団体を回り、「何か一緒にしませんか?」と声掛けをした。その際、「何かしたいけど、何をしたらいいのかわからない」との意見があったため、『体操はいかがですか? みんなで介護予防しませんか?』と声掛けをして回り、その都度、住民の方からの「立ち上げるにはどうしたらいいのか?」「道具の準備は?」等のお尋ねや要望に応じているうちに立ち上がっていった。各団体とつながりを持って、皆様に顔を覚えていただいたのが良かったと思っている。

○委員

今後の活動の発展において課題は何？

○ささえりあ清水・高平（北3）

認知症の方が多く、中には活動を覚えていない方もいる。また、認知症の方との接し方がわからないという声もある。そのため、今後の活動の中で、認知症サポーターを活用し、認知症予防も含めた介護予防の取り組みを広めていけたらと考えている。

また、かたんなっせの活動が生活支援（ちょっとしたお手伝い）につながればと考えている。清水校区では、人と人のつながり、近所のつながりを構築できるように『あいさつ運動』が始まった。ささえりあとしても介護予防や高齢者の見守り体制の支援ができたらと考えている。

○委員

指導者としてバックアップした熊本健康・体力づくりセンターや朝日野総合病院の役割が大きいと考える。また、ささえりあ清水・高平の生活支援コーディネーターが色々な場所に顔を出しており、地域の状況をよくわかっている。ささえりあ清水・高平の生活支援コーディネーターの熱意でここまでかたんなっせの活動が成長している。

しかし、残念なのが、清水校区と高平台校区において、くまもと元気くらぶの対象が1団体。熊本市にはくまもと元気くらぶに加入しやすい仕組みを考えてほしい。

生活支援コーディネーターの立ち上げ当初から見れば、生活支援コーディネーターのおかげで話し合いもスムーズになり、ささえりあには生活支援コーディネーターがいるという認知も広がり、社会資源把握や地域におけるネットワーク構築の役割を果たしていると感じている。

○委員

サロンには新規参加者が少なく参加者が固定化している、参加者に男性が少ない等の課題があると考ええる。

また、体力がついたとか運動機能が上がった等の体力測定の評価結果をもっと説明すれば必要性が理解してもらえると考えているが、何か実施している取り組みはあるか。

○ささえりあ清水・高平（北3）

協議体でも男性参加者が少ないという課題が挙がっているところ。高平地区では男性向けの料理教室を開催して、男性が独り身になっても困らないように、男性の生活支援として試みている。また、男性は麻雀には行きたがられるということで『麻雀教室』をつくられた。

体操教室での体力測定で効果が得られることも説明しているが、女性の多いところには

行きたくないという男性の声が多い。体操教室に意欲のある男性を体操教室につなげていくのはもちろんだが、体操教室は男性にハードルが高い面もあるため、男性に興味のある『囲碁』や『麻雀』等の活動を増やしていけたらと考えている。

○委員

認知症コールセンターの相談の中でも、居場所がないという声をよく聴くので、かたんなっせのような活動が増えていけばいいと考える。また、男性向けの料理教室等の活動は、男性ならではの悩みの解消につながるため、良い取り組みをされていると考える。他のささえりあでも同様の取り組みはあるのか？

○事務局

各ささえりあが各地域にあった形で取り組みを実施している。

○委員

今後、他のささえりあの活動も教えていただきたい。

○委員

参加者の方へのPR方法を教えてほしい。

○ささえりあ清水・高平（北3）

ささえりあ清水・高平では、相談される方（介護保険申請の相談を含めて）や担当ケアマネジャーに体操教室の情報提供をしている。また、新規で介護保険申請の相談をされた方には、介護保険ありきではなく、まずは地域の通いの場を紹介する運用で統一している。

さらに、担当圏域内のケアマネジャーには地域ケア計画を提供し、掲載されている通いの場の一覧から紹介することを勧めている。

報告

＜地域包括支援センターの運営状況及び評価について事務局より説明＞
質疑応答

○副会長

資料p6表4「権利擁護に関すること（延べ）」の項目「虐待への対応に関すること」について。具体的な内容は分かるか？

○事務局

事例の追跡までしていないため、持ち合わせていない。

○副会長

次回、虐待事例の種類を教えてください。

虐待にも、加害者が何らかの原因があって耐えきれずに虐待するものと、日常的に虐待がされているものがあると考えます。前者の場合は救いを与えねばならないし、後者の場合は監視が必要と考える。そのためにも虐待の種類が可視化できれば良いと考える。

○委員

高齢者の虐待が多い。息子から母親への虐待等、以前は聞かなかった虐待事例が地域で増えていると実感する。

○委員

資料 p4 表 1「相談件数（延べ）」について、項目「認知症に関すること」の電話相談件数が 1,246 件。認知症コールセンターの相談件数が 1,209 件であったため、ささえりあへの相談件数の方が多く、少し残念だった。

また、資料 p4 表 1「相談件数（延べ）」の「居住環境に関すること」について。認知症コールセンターの相談案件の中で、市営住宅居住の方から、認知症等が原因で住み替えをしたいが、経済的に住み替えが困難なケースの相談がある。「居住環境に関すること」には、そういう相談も含まれるのか。

○事務局

含まれる。住み替えの相談については、平成 28 年度の熊本地震の際の相談件数が最も多かった。住み替え、居住場所、近隣の介護施設等の有無も含めて住まいに関する相談の件数が計上される。

○委員

今後、高齢者の居住問題の相談件数が増えると思うが、どこに相談すればいいのか。

○事務局

熊本市居住支援協議会という会議体があり、熊本市地域包括支援センターも委員として入って意見交換をしているため、住み替えのご相談があれば、然るべき窓口を紹介している。

また、空き家についても課題であるため、相談者が転居される場合には、元々住んでいた家の整理について助言ができる窓口を紹介する取り組みを進めたいと考えている。

○委員

資料 p16「(6) 生活支援コーディネーター業務」について。「地域支え合い型サービス補

助金」を積極的に活用するとあるが、活用できていない現状があるということか。もっと活用しやすいシステムに改善できないのか。

また、資料 p 18 の有償ボランティアの具体的な内容を教えてほしい。

○事務局

「地域支え合い型サービス補助金」は今年度（2019 年度）4 月より開始されたもので、今後活用を促進していくという状況。詳細は後ほど「議題(2) 令和元年度地域包括支援センターの重点的取組（報告）」で説明する。

有償ボランティアについては、例としては、調理や買い物代行等。本件についても、詳細は後ほど「議題(2) 令和元年度地域包括支援センターの重点的取組（報告）」で説明する。

○委員

ささえりあはよく頑張っていると思う。ささえりあ無くして地域福祉活動は成り立たないと考えている。資料 p 13 に「各センターの運営が適切に行われている」とあるが、ささえりあ職員の実態は多忙かつ財源的にも厳しい中で活動されている。地域で通いの場等も増え、様々な活動、催し等でささえりあにお声がかかり、ささえりあ職員が信頼されている一方で、なかなか全てに応えられないため、歯がゆさを感じているささえりあ職員もいる。

市にはささえりあ職員の現場の声を聴いて、地域から頼りにされているささえりあ職員が働きやすいような良い環境づくりに取り組んでほしい。

○事務局

「運営が適切に行われている」とは、市の求める評価基準に達しているのご理解いただきたい。

○委員

昨年度（2018 年度）よりささえりあの委託先の法人の変更や、ささえりあの担当圏域の変更が数箇所あったが、混乱・変化はなかったか。

○事務局

変更での大きな混乱・変化はなかったと考えている。変更当初は時々市民から「なんで変わったのか」と質問は受けることはあったが、ささえりあと市で協力して事前周知ができていたため、混乱なく変更できたと考えている。また、新規で受託した法人には、前任の法人からの引継ぎ等においても、市からもバックアップしたところである。

しかしながら、生活支援コーディネーター業務においては、地域と顔の見える関係を築いてこそ活動しやすい支援なだけに、新規で受託した法人は少し差があったと考える。そのため、事例検討会で生活支援コーディネーターとしての取り組み方を学んでもらい、また月に

1 度の生活支援コーディネーターの集まり等でセンター間で情報交換等を実施している。

○委員

ささえりあの担当圏域が変更になり、正直、混乱された市民の方もいると考える。

市のまちづくりセンターの体制にささえりあの体制も合わせたと理解はしているが、ささえりあの人員配置等も見直しが必要となったため、運営している法人においても、とても大変だったと考える。

民生委員にとっても一番頼りになるのはささえりあ（地域包括支援センター）。全国の民生委員のアンケートでも同様の結果。地域福祉・高齢者保健福祉には欠かせないささえりあを市の全面的なバックアップを強く要望する。なので、担当圏域が変更されるのはできる限り避けてほしい。

報告

<令和元年度地域包括支援センターの重点的取組について事務局より説明>

質疑応答

○委員

予防ケアプラン作成料の単価について。単価を上げる予定はないのか。

また、ささえりあが介護予防支援をしていた要支援者が要介護になった場合、居宅介護支援事業者がケアプラン作成を担うと考えるが、その際の同一事業所法人の利用率を出すことは可能か。

○事務局

1 点目の予防ケアプラン作成料の単価について。2019 年 10 月からの消費税増税に伴い、国が示している単価が 430 点から 431 点になる。来期の計画策定である令和 3 年以降の予防プランの料金については、実態に合わせて増額するように他の政令指定都市とともに国に要求しているところ。

2 点目の要支援者が要介護になった場合の同一事業所法人の利用率は、現在、統計を取っていない。今後、熊本市地域包括支援センター連絡協議会の業務改善部会にて議題として挙げ、統計を取ることが可能かどうか、また、統計を取ることによって増加し得るささえりあの業務量等も勘案して、検討した結果を次回の運営協議会で回答させていただく。

○委員

資料 p 23 のくまもとメディカルネットワークについて。どう活用をする想定か。

○事務局

主な活用としては、入退院を繰り返される利用者を医療から介護につなげるとき等、関係者間の意思疎通が効率的にできること。画像や動画も共有化できるため、医療や介護の関係者をネットワーク上で結び、情報を共有化できる。なお、利用者から同意を得た利用施設のみ、情報が共有化される。

○委員

資料 p 21 の地域支え型サービスの実施状況にある 11 のサービス運営者は、全て「熊本市地域支え合い型サービス補助金」を活用しているということか。

また、他にも地域で活動をされている団体を知っているが、他の団体はまだ未申請ということか。

○事務局

そのとおり。

○会長

まだ「熊本市地域支え合い型サービス補助金」が知られていないのでは。せっかく補助金があるのだから、利用してもらった方が良い。

○事務局

「熊本市地域支え合い型サービス補助金」に未申請で対象になり得る活動をされている団体がある場合は、各ささえりあの生活支援コーディネーターと連携して情報共有、必要な支援を実施していく。

○会長

今回の議題は全て承認ということで、各種課題については次回に確認することにする。

○事務局

次回の「第 2 回 熊本市地域包括支援センター運営協議会」は、来年の 3 月頃を予定している。その際、各種課題についても回答する。

閉会